

## 平成目安箱への回答 No.17 (大磯を英語特区に)

担当主管課：政策課政策係 内線 205

学校教育課教育指導係 内線 340

### 要望等内容

昨今大磯の学校関係の話題というとな、まず給食問題が上がります。給食問題は早急に解決しなくてはいけない問題ですが、20年後、30年後の大磯を考えて是非取り組んでいただきたいことがあります。

大磯は、現在活躍されている大隅良典先生、村上春樹氏はもとより、過去には伊藤博文、陸奥宗光、吉田茂、澤田美喜、新島襄などをはじめとする国際的な舞台上で活躍した先人のゆかりの地です。その大磯の国際性を次世代に引き継ぐために大磯を英語特区にして、大磯の小・中学校に特別な英語カリキュラムを導入して欲しいと思います。子供達が小さい頃から「使う英語」を習得することで国際性を身につければ、どの分野に進もうとも人生の可能性が広がると思うのです。

この点で注目しているのが、岡山県の和気町での取り組みです。和気町では、教育環境を充実させることが町づくりの核になっていて、英語特区が導入され、保育園から中学校に至るまで、様々な体験型の英語教育を行う仕組みが作られています。また、和気町の英語教育の施策は大人にも及び、大人もオンライン無料英語レッスンを受けられます。英語特区の導入により、校区外からの子供が増加。移住促進にも大いに役に立っているようです。

豊かな自然と歴史に恵まれた大磯町に国際的な感覚を加えて、大磯町をさらにユニークな町にすることで、大磯はますます活気と魅力に溢れた町になるのではないかと思います。

### 回答

町政につきましては日頃より御理解、御協力いただきありがとうございます。御意見のありました岡山県和気町では、教育課程特例校制度を活用し小学校での英語教育に力を入れ、移住促進施策の特色の1つとしているようです。

当町においても、「交流人口の増加と定住人口の安定化」を目標に掲げ、「大磯を好きになり、移り住み、住み続けたい」と希望する方を一人でも増やすことができるよう、様々な取り組みを進めているところです。

当町の英語教育は、子どもたちが楽しみながら将来も使える英語を習得することを目指し、20年以上前から外国人英語指導助手(AET:Assistant English Teacher)を小中学校に配置しています。現在では幼稚園・保育園でも、ネイティブな英語に触れる機会を設けるとともに、担任の教員や外国語科(英語科)の担当教員と連携し、幼・保・小・中のつながりを意識した英語教育を進めています。また2020年度から「新学習指導要領」により小学校の外国語活動・外国語科の授業数が増えることを見据え、今年度は、小学校に中学校の外国語科(英語科)の免許を有する教員を配置し、小中学校が連携した授業を展開しています。

当町においても英語教育をさらに充実していきたい気持ちはありますが、「新学習指導要領」における授業数の増加に対応するため、外国語を専門に教える教員や AET の人材確保などが課題となっており、まずは、それらの課題を解消することを優先していきたいと考えています。今後も新学習指導要領に対応する中で、これまで積み重ねてきた当町の英語教育の強みを生かし、子どもたちが楽しく英語を学べる学習環境について研究してまいります。

また、岡山県和気町の取り組みは移住促進に向けた特徴ある施策ですが、現状として当町では導入は困難であり、これまで実施してきた取り組みを継続する中で、「大磯に住みたい、住み続けたい」と思っただけのような魅力あるまちづくりを進め、「交流人口の増加と定住人口の安定化」につなげてまいります。

御意見をいただき、ありがとうございました。

目安箱受付日：H30. 12. 10

掲示日：H31. 1. 8